

号外!

## 備える。かわさき

関東大震災100年  
特別対談川崎市長  
福田紀彦東京大学  
目黒公郎教授

川崎市制が始まったころの川崎市役所。  
庁舎は震災被害を受けた川崎町の建物につかえ棒で  
応急処置したものだった。

令和5年11月から本格供用開始する  
川崎市役所本庁舎。



過去の災害に学び、新たな未来につなぐ

1923年9月1日に起こった大正関東地震によって  
甚大な被害が引き起こされた関東大震災からの復興が進む中、  
翌1924年7月1日に川崎市が誕生しました。  
この100年の間にも震度6を超える地震は全国各地で起こっており、  
首都圏を震源とする大地震もいつ起きてもおかしくないと言われています。  
大地震が起きた時に地域がどのような状況になり、  
自助・共助・公助がそれぞれどのように行動するのかを知ることが備えの第一歩となります。  
川崎市民一人ひとりの防災力が高く災害に強いまちであるために、  
関東大震災から100年を機に過去の震災の出来事を自分事として捉え  
大地震が起こったときの状況を想像し、今備えるべき物や行動について見直してみませんか。

